

黒住 真先生 業績一覧

凡例

- ・執筆降順——2016年2月まで
- ・1書籍, 2論文, 3翻訳, 4国際学会発表, 5国内学会・会合発表, 6書評・小論, 7対談・その他

1. 【書籍——著書(単著)・編著(共著)】

- 『日本思想史講座5 方法』編著 (I研究の課題と方法—「日本思想史の方法総論: 物事の形態と把握の歴史」 pp. 17-71 執筆), ぺりかん社, 2015年12月
- 『日本の思想 第4巻 自然と人為』編著 (総論「自然と人為——つつまれる人／のりこえる人」 pp. 3-30 執筆) 岩波書店, 2013年8月
- 『日本の思想 第1巻「日本」と日本思想』編著 (総論「日本思想とはなにか」 p. 21-50 執筆) 岩波書店, 2013年4月
- 『思想の身体 徳の巻』編著 (「人において徳とはなにか——その基礎・思想史への問い」 pp. 3-96 など執筆) 春秋社, 2007年3月
- 『複数性の日本思想』ぺりかん社, pp. 1-543, 2006年2月
- 『近世日本社会と儒教』ぺりかん社, pp. 1-569, 2003年4月
(→ 博士学術 16114号, 2004年10月28日: 三谷博, 大貫隆, 山脇直司, 小島毅, 小島康敬)

2. 【論文】

- 「近代日本の思想家がとらえる「中世」社会」『倫理学年報』64, pp. 30-41, 2015年3月
- 「近世日本における公共のゆくえと現在」『思想史研究』第20号, pp. 84-93, 2014年10月
- 「日本における一神教・多神教」『福音と世界』pp. 37-43, 2014年3月号
- 「近代日本哲学と神——西田幾多郎・岩下壮一とその前後から現代を考える」『共生学』No. 8, 2014年2月
- 「近代日本の哲学・キリスト教と岩下壮一」『キリスト教文化研究所紀要』(上智大学) 31, pp. 21-50, 2013年3月
- 「漢文から和文へテキスト世界の変容」『古典日本語の世界 II 文字とことばのダイナミクス』pp. 177-203, 東京大学出版会, 2011年5月
- 「日本の思想的諸伝統とキリスト教」『カトリック研究所論集』第十五号, pp. 29-56, 仙台白百合女子大学, 2011年3月
- 「キリシタンと仏教」『新アジア仏教史 13 日本 III 民衆仏教の定着』pp. 13-75, 佼成出版社, 2010年11月
- 「日本の思想における死と再生——いま、過去から将来に向けて」『死と再生』(宮本久雄・武田な

- ほみ編著 第IV部 日本的死生観と生死を生きてきた人々) p. 183–215, 日本キリスト教団出版局, 2010年4月
- 「本居宣長「もののあはれを知る」をめぐる」『モノ学の冒険』鎌田東二編著, pp. 137–156, 創元社, 2009年12月
- 「東洋思想の発見」岩波講座『哲学15 変貌する哲学』pp. 139–179, 岩波書店, 2009年7月
- 「近世・近代の日本宗教における世俗化」『アブラハムの伝統の臨界——三大一神教の哲学・神学・政治論とその外部の地域文化的研究』〔科学研究費補助金(基盤研究A) 課題番号: 17201047 平成17(2005)～平成20(2008)年度, 研究代表者 大貫隆〕pp. 23–35, 研究成果報告書, 2009年3月
- 「「古い」について——倫理思想史からの問い」『倫理学年報』第57集, pp. 79–96, 2008年3月
- 「本居宣長「もののあはれを知る」をめぐる」『モノ学 感覚価値研究』第2号 pp. 73–82 (科研モノ学・感覚価値研究会年報) 京都造形芸術大学, 2008年3月
- 「平和への問い——初期の倫理思想から」『平和研究』Vol. 32 スピリチュアリティと平和, p. 51–70, 日本平和学会編, 早稲田大学出版部, 2007年11月
- Asian View: History of Thought & Religion in Japan: Up to Present, *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT Bimonthly* ジャパン・スポットライト (JEF: Japan Economic Foudation 財団法人国際経済交流財団), pp. 34–35, 2007年3/4月
- Asian View: History of Thought & Religion in Japan: Up to Pre-modern Times, *Economy, Culture & History JAPAN SPOTLIGHT Bimonthly* ジャパン・スポットライト (JEF: Japan Economic Foudation 財団法人国際 経済交流財団), pp. 44–45, 2007年1/2月
- 「地域文化＝学術の社会性——近世以後の日本思想における」『日本地域文化ライブラリー 2 吉備の歴史と文化』, pp. 17–57, 早稲田大学日本地域文化研究所編, 行人社, 2006年12月
- 「日本の公共・市民とその学術」『学術の動向』2006.7 (第11巻7号, 通巻第124号) pp. 8–12, 2006年7月
- 「徳川前期の公共をめぐる倫理思想」宮本久雄・山脇直司編『公共哲学の古典と将来』(公共哲学叢書8) 東京大学出版会, pp. 157–195, 2005年1月
- 「明治初期における「公」的宗教の形成とその倫理」三谷博編『東アジアの公論形成』pp. 101–125, 東京大学出版会, 2004年12月
- 「他者とその倫理」『思想史研究』第4号, pp. 227–239, 2004年3月
- Ethics and “The Other” in *Japanese Religious Traditions*, 平成14–15年度科学研究費補助金(基盤(C)(2)) 研究成果報告書「他者」の哲学の総合的研究 研究代表者今井知正, 2004年3月
- 「近世の諸思想と仏教」, 末木文美士・松尾剛次・大久保良峻・佐藤弘夫・林了淳〔編〕『日本仏教34の鍵』pp. 220–227, 春秋社, 2003年5月
- 「公共形成の倫理学——東アジア思想を視野に」『公共哲学10 21世紀公共哲学の地平』東京大学出版会, pp. 71–110, 2002年7月

- “Tokugawa Confucianism and Its Meiji Japan Reconstruction”, in *Rethinking Confucianism: Past and Present in China, Japan, Korea, and Vietnam*, pp. 370–396, edited by Benjamin A. Elman, John B. Duncan, and Herman Ooms, University of California, Los Angeles, July 2002.
- 「日本思想における「和」の概念」『地域文化研究専攻紀要 Odysseus』6号, pp. 4–17頁, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 2002年2月
- 「日本における公私問題」『公共哲学3日本における公と私』東京大学出版会, 総8頁, 2002年1月
- 「倫理化の過程——近世の倫理—宗教空間」小森陽一・島藺進他編『コスモロジーの「近世」』(岩波講座近代日本の文化史2) pp. 95–128, 岩波書店, 2001年12月
- 「「和」の意義と課題」『思想史研究』(東大大学院総合文化研究科日本思想史思想論研究会)第1号, pp. 209–218, 2001年3月
- 「前近代日本の思想・宗教複合とキリスト教」『聖学院大学総合研究所紀要』pp. 31–70, 第19号, 聖学院大学, 2001年2月
- “Kangaku: Writing and Institutional Authority”, in *Inventing the Classics: Modernity, National Identity, and Japanese Literature*, pp. 201–219, edited by Haruo Shirane and Tomi Suzuki, Stanford University Press, 2001年1月
- 「日本思想における自己と公共性」『日本倫理思想史における中国文化要素』科研費平成9–11年研究成果報告書(基盤C-2, 09610036), 2000年3月
- 「国学の死生空間と魂の行くえ」関根清三編『死生観と生命倫理』pp. 128–147頁, 東京大学出版会, 1999年8月
- 「漢学——書記・生成・権威」シラネ・ハルオ, 鈴木富美編『創造された古典』pp. 213–257頁, 新曜社, 1999年4月
- 「東洋・日本思想の責任論をめぐって」『地域文化研究専攻紀要 Odysseus』3号: pp. 23–37頁, 東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻, 1999年3月
- 「思想と文学——領域をめぐる儒学・国学の運動」『国文学／解釈と教材の研究』(学灯社)44巻2号, pp. 120–126, 1999年2月
- 「情報史からみた人間の変容」島藺進他編『情報社会の文化4心情の変容』pp. 175–209, 東京大学出版会, 1998年4月
- 「思想史を学ぶ」義江彰夫他編『歴史の対位法』pp. 211–226頁, 東京大学出版会, 1998年4月
- 「日本思想とその研究——中国認識をめぐって」『中国——社会と文化』11, pp. 3–28, 中国社会学会, 1996年6月
- 「訳文筌蹄をめぐって(1)」『人文科学科紀要』(東京大学教養学部), pp. 51–68, 1995年5月
- 「和辻哲郎・解説」湯浅泰雄『和辻哲郎』ちくま学芸文庫, pp. 481–491, 1995年5月
- 「日本儒学の制度と性格」『比較法史研究(ヒルトリア・ユリス)』4, pp. 245–260, 比較法史学会, 1995年5月
- 「近世日本思想史における仏教の位置」『日本の仏教』1, pp. 205–217, 法蔵館, 1994年10月

- 「儒学と近世日本社会」『日本通史 第13巻 近世3』(岩波書店) pp. 253-302, 1994年9月
- The Nature of Early Tokugawa Confucianism *Journal of Japanese Studies*, 20:2 (Society for Japanese Studies), pp. 337-375, 1994年9月
- 「キリシタンと日本思想の出会い」『哲学論集』(上智大学哲学会) 第23号, pp. 1-15, 1994年6月
- 「初期徂徠の位相——出自・流謫・志向」竹内他編『日本思想史叙説第4集』(ぺりかん社) pp. 74-107, 1994年6月
- 「キリシタン禁制と近世日本——秀吉「天正十五年六月十八日付覚」をめぐって」溝口雄三他編『アジアから考える4社会と国家』pp. 167-212, 東京大学出版会, 1994年3月
- 「儒学の体系化——仁斎・徂徠の思想構築」頼祺一編『日本の近世13 儒学・国学・洋学』(中央公論社) pp. 81-122, 1993年7月
- A Confucian Perspective on Civilization: The Continuing Relevance of Japanese Neo-Confucianism 『学人』(中国江蘇出版社) 第III輯 pp. 551-560, 1992年12月
- 「日本人の道德性」溝口・安彦・大庭編『道德の理由——Why be moral?』(昭和堂) pp. 97-123, 1992年12月
- 「文明論からみた東アジア新儒教」『梅園学会報』(梅園学会) 第17 pp. 24-29, 1992年11月
- 「日本の天」祖父江孝男編『人間を考える——学際的アプローチ』(放送大学印刷教材) pp. 182-186, 放送大学教育振興会, 1992年3月
- 「日本新儒教の知識論と近代化」『学人』(中国・江蘇出版社) 第I輯: pp. 543-549, 1991年11月
- 「朝鮮文明と日本文明」『新東亜』(韓国・東亜日報社) 1991年第9号: pp. 416-439, 1991年9月
- 「徳川前期儒教の性格」『思想』(岩波書店) 1990年第6号(第792号): pp. 102-131, 1990年6月
- 「儒教の日本化をめぐって」『日本学』(名著刊行会) 第12号: pp. 136-147, 1988年11月
- 「伊藤仁斎の倫理——基底場面をめぐって」『思想』(岩波書店) 1988年第4号(第766号): pp. 54-81, 1988年4月
- 「荻生徂徠の人間論に向けて」『中国古典研究』(中国古典研究会[早稲田大学]) 第32号: pp. 1-20, 1987年12月
- 「三徳抄」『古典の事典〈精髓を読む 日本版〉・7 (同編纂委員会編) 1986年6月
- 「宮沢賢治の想像力と他界」『季刊日本学』(名著刊行会) 第5号 pp. 148-163, 1984年10月
- 「広瀬淡窓の倫理思想」『倫理学紀要』(東京大学) 第1輯: pp. 42-72, 1984年10月
- 「折口信夫——新しい古代学」pp. 115-118, 「中井正一——機械時代の新しい詩」pp. 322-326, 「森鷗外——石見人・森林太郎」pp. 467-471 『日本の思想家 名言事典』伊藤友信・佐藤正英・峰島旭雄編, 雄山閣出版, 1983年12月
- 「伊藤仁斎の思想と詩歌」『季刊日本思想史』(ぺりかん社) 第21号: pp. 22-49, 1983年9月
- 「伊藤仁斎の「道」——善定立の姿にみる」佐藤・野崎編『日本倫理思想史研究』pp. 179-207, ぺりかん社, 1983年7月
- 「徂徠における学問の基底——学と主体の「大」「小」をめぐって」竹内・西村・窪田編『日本思

想史叙説』 pp. 139–195, (ぺりかん社), 1982年10月

「荻生徂徠——差異の諸局面」『現代思想』(青土社) 10巻12号: pp. 386–398, 1982年9月

「徂徠学における「道」の様態」『日本思想史学』(日本思想史学会) 第10号: pp. 38–52, 1978年9月

「活物的世界における聖人の道——荻生徂徠の場合」『倫理学年報』(日本倫理学会) 第27集: pp. 201–214, 1978年3月

「いま、いったい何をなすべきか」『見る・考える・行動する』全国高校生活指導研究協議会(高生研) 編: 高校生新書100, pp. 173–194, 三一書房, 1968年4月

3. 【翻訳】

ケイト・ワイルドマン・ナカイ『新井白石の政治戦略——儒学と史論』(平石直昭, 小島康敬と共訳), 東京大学出版会, 2001年8月

ヘルマン・オームス「テキストと隠れた次元」『岩波講座 現代思想』(第IX巻テキストと解釈)(共訳), 1994年3月 Herman Ooms. “The Text and its Hidden Dimension”

ヘルマン・オームス『徳川イデオロギー』(黒住真・清水正之・豊澤一・頼住光子共訳), ペリかん社, 1990年10月 Herman Ooms. *Tokugawa Ideology: Early Constructs, 1570–1680*. Princeton University Press, 1985

4. 【国際学会発表】

「倫理思想史における日本・東アジアと地球化——近現代の「空白」をどう越えるか」『周辺より見る中国——国際学術検討会』復旦大学, 文史研究院(→論文集下巻, p. 465–485(日本語+中国語)), 2007年12月18日

「〈公共〉形成と近世の日本思想」, 国際学術シンポジウム「公私領域への新たな探求: 東アジアの観点と西洋との比較」, 国立台湾大学総図書館国際会議室(主催: 国立台湾大学東亜文明研究センター, 公共哲学共働研究所) 2004年12月4–6日

「近代化の経験と東アジア儒教——日本の場合」, 国際会議「儒教と東アジアの近代」2004.03.26–27, 中国社会科学院哲学研究所

「東アジア近代の経験におけるヨーロッパ像と自己像」(第4セッション)にコメント, 2003年11月7日. 東アジア四大学フォーラム東京会議2003「もう一つの眼で見る東アジア」2003年11月6–7日 東京大学駒場.

「東アジアの儒教と近代の「知」」コメントおよび総司会 2003年10月31日・11月1日. 嶺南大学国際シンポジウム, 韓国大邱・嶺南大学校, 2003年10月31日–11月3日

「他者とその倫理——日本思想史から」2003年5月18日発表, 第4回グローバル公共哲学京都会議「自己と他者—他者性における公共哲学再考」(京都フォーラム) 2003年5月17–19日, 京都.

「日本儒教の特徴」2000年12月22日, 韓国KBSテレビ, トウル論語講話 10:00–11:00, 金容沃と

共同講演

「和」の意義と課題——日本思想史を例に」韓日公共哲学共同学会議（将来世代総合研究所・韓国政治思想学会・西江大学社会科学研究所主催），2000年12月20日，李花女子大学（ソウル），発表

「日本思想史と儒教」韓国・慶尚大學學術シンポジウム，1998年11月

5. 【国内学会・講演・発表】

「出口なお、神がかりのおふでさきにおける思い——日本近代化における生の体験から」上智大学キリスト教文化研究所，シンポジウム『女性と共生 Part2』2015年12月5日

「近現代日本の霊性と幸福の位置付けまた今後の可能性」東京基督教大学 | 共立基督教研究所研究会 A-2 医療看護とスピリチュアリティそして日本的“思いやり”，2015年10月10日

「日本文化史から見た「天地」「幸福」「愛」」シンポジウム『コスモス・幸福・愛』（地域文化研究専攻第23回）2015年6月27日

「日本の思想史から見た近代また戦後の「宗教と社会」とくに戦後発生した課題と今後の方向」「宗教と社会」学会第23回大会テーマセッション「戦後70年の宗教と社会」2015年6月14日

「日本における中国思想などの受容形態の歴史的要点」2015年5月30日，アスペン研究所【第13回 CampNIDOM21『中国思想と現代2』】軽井沢鹿島ノ森 2015年5月29～3日

「近代日本史における宗教と権威のあり方——戦いや力の所有をこえて」，2014年6月29日，上智大学キリスト教文化研究所 2014年度連続講演会「平和を築く——宗教は何を託されているか」

「近代日本哲学における信仰と理性——岩下壯一と西田幾太郎」，2013年9月9日，日本カトリック神学会第25回学会術大会総合テーマ「信仰と理性」2013年09月09～10日 上智大学

「朱子学的思想文化の諸地域での在り方と変容史いくつか」共同研究課題：心身／身心と環境の哲学：東アジア伝統的概念の再検討とその普遍化の試み，国際日本文化研究センター，2012年12月8日

「近代日本哲学史と神——西田幾太郎・岩下壯一とその前後から現代を考える」シンポジウム『宗教における言語と存在——将来世代の共生に向けて』東京大学本郷，2012年11月24日

「自然的な様相における人間の営みとは——地震・津波・原発を振り返った歴史からみる」日本倫理学会・ワークショップ，日本女子大学，2012年10月12日

「近代日本における哲学・キリスト教と岩下壯一」上智大学キリスト教文化研究所・第40回連続講演会「日本カトリシズムの再生」，2012年6月16日

「日本の思想的伝統とキリスト教」仙台白百合女子大学，カトリック研究所，仙台，2010年1月25日／聖学院大学総合研究所「日本研究」，東京，2010年1月26日

「近代日本哲学における宗教とその後」公開シンポジウム「アジア文化の多元性と共存—宗教と思想の視線から」日本学会議哲学委員会・日本哲学系諸学会連合・日本宗教研究諸学会連合，2009年11月29日

- 「日本の近代化・大学における諸思想とキリスト教」(日本カトリック神学会 第21回学術大会「パ
ネルディスカッション:日本の思想からキリスト教信仰へ」), 上智大学, 2009年9月13日
- 「漢文から和文へ——近世中期思想家のテキストと治世観」国漢フォーラム, 2009年7月18日
- 「日本の近代化と思想宗教の組織化」2009年4月10日, 国際日本文化研究センター「日本の近代
化とプロテスタンティズム」2009年4月10-11日
- 「近世近代の日本宗教における世俗化」シンポジウム「宗教と世俗化」東京大学地域文化研究専攻,
2008年11月1日
- 「近世・近代・21世紀からみた新井奥邃・倫理思想」京都フォーラム 第85回「新井奥邃と公共人
間」2008年10月12日
- 「人間生活における普遍的倫理とは——日本・東アジア・近代の「空白」を越えて」オリエン
ス 2008年2月28日
- 「本居宣長「物のあはれを知る」——思想史から」第4回モノ学研究会, NPO 法人東京自由大学,
2007年12月2日
- 「「老い」について——倫理思想史からの問い」日本倫理学会 第58回大会 共通課題「老い」新
潟大学, 2007年10月14日
- 「孔子」〈人類の知の遺産〉, 東京自由大学, 2006年11月11日
- 「日本思想の死生観からの問い」『東アジアにおける死と生の景観』景観班岩手大学地域連携推進
センター連携共催, 2006年9月10日
- 「儒教の倫理・政治的はたらき」シリウス経営倫理研究会, 2004年5月19日, 於 帝国ホテル
- 「近代化の経験と東アジア儒教——日本の場合」, 国際会議「儒教と東アジアの近代」2004年3月
26-27日, 中国社会科学院哲学研究所
- 「日本思想における「一神教的なもの」」公共哲学京都フォーラム 57「唯一神教と自・他論」2004
年1月11日(会期: 10 Sat-12 Mon) 於 リーガロイヤルホテル京都
- 「メディアの進展と東アジア・日本の思想文化」2003年9月27日発表. 第50回公共哲学京都フォー
ラム「メディアと公共性: デジタル化社会における公私問題」2003年9月27-29日, 京都.
- 「他者との出会いと物語・語り・表現」第48回公共哲学京都フォーラム 2003年6月28-30日. 司
会.
- 「地球的平和と公共性——イラク戦に抗して」(地球平和公共ネットワーク, 公共哲学ネットワーク,
足の裏で憲法第9条を考える会)
- 「セッション2 カントと平和公共哲学」2.22に司会, 2003年2月22-23日, 千葉大学.
- 報告⑤「公共形成の倫理学: 東アジア思想を視野に」地階 B23A 教室 2002年10月13日, 関西
公共政策研究会・公共哲学研究会, 2002年10月12-13日 京都大学人間・環境学研究科
- 「日本における公共形成の構造と倫理——日本思想史研究の回顧から」公論形成研究会, 2000年12
月2日, 東京大学駒場キャンパス, 発表シンポジウム「アジアを語る——その困難さと可能性」
2000年8月29-30日 於 国際交流基金・国際会議場(赤坂アーク森ビル 20階) 第Iセッション

10:00-12:00 アジアを語ることのジレンマ 孫歌 中国社会科学院での労働者。

「前近代日本思想における自己」公共哲学研究会(将来世代総合研究所), 2000年7月15日, 京都国際会議場, 講演

「公共的知識人としての荻生徂徠」公共哲学研究会(将来世代総合研究所), 2000年1月29日, 大阪リーガロイヤルホテル, 講演

シンポジウム「戦後中国研究——時代の課題と巨人たち」セッションI・報告1「日本研究にうつし出された中国」1995年9月16日, 中国社会文化学会 1995年9月15-16日

6. 【書評・小論】

「書評 佐藤光『柳宗悦とウィリアム・ブレイク: 還流する「肯定の思想」』東京大学出版会」和辻哲郎文化賞(学術部門)第28回選考評, 2016年2月

「駒場という場所の在りさまと現在: 自分自身ふり返ると」教養学部報581号, 「駒場をあとに」欄, 2016年2月

「書評 稲垣良典『トマス・アキナスの神学』創文社, 『トマス・アキナス: 「存在」の形而上学』春秋社」和辻哲郎文化賞(学術部門)第27回選考評, 2015年2月

「近代日本キリスト教への現代右翼的論考」書評: 新保祐司「近代日本における「基督教」」, 富岡幸一郎『スピリチュアルの冒険』

富岡『新大東亜戦争肯定論』をめぐる, ソウル大学, 日本批評10号(日本の保守・右翼), 2014年12月

「書評 野本和幸『フレーゲ哲学の全貌: 論理主義の意味論の原型』勁草書房」和辻哲郎文化賞(学術部門)第26回選考評, 2014年2月

「書評 中島隆博『共生のプラクシス: 国家と宗教』東京大学出版会」和辻哲郎文化賞(学術部門)第25回選考評, 2013年2月

「歴史の流れにおける「たばこ」と日本文化」『TASC』12, pp.6-11, 2012年12月

「二十一世紀の文化形態の方向を目指して」加藤敏編著『レジリアンス・文化・創造』金原出版 2012.5, 図書新聞, 2012年10月27日

「書評 中畑正志『魂の変容 心的基礎概念の歴史的構成』岩波書店」和辻哲郎文化賞(学術部門)第24回選考評, 2012年2月

「書評 権左武志『ヘーゲルにおける理性・国家・歴史』岩波書店」和辻哲郎文化賞(学術部門)第23回選考評, 2011年2月

「書評 互盛央『フェルディナン・ド・ソシュール〈言語学〉の孤独: 「一般言語学」の夢』作品社」和辻哲郎文化賞(学術部門)第22回選考評, 2010年2月

「書評 森一郎『死と誕生: ハイデガー・九鬼周三・アーレント』東京大学出版会」和辻哲郎文化賞(学術部門)第21回選考評, 2009年2月

「書評 伊藤邦武『パースの宇宙論』岩波書店」和辻哲郎文化賞(学術部門)第20回選考評, 2008年

2月

- 「書評と紹介 吉田俊純『熊沢蕃山——その生涯と思想』『日本歴史』706号, pp. 118-120, 吉川弘文館, 2007年3月
- 「書評 今道友信『美の存立と生成』ピケナス出版」和辻哲郎文化賞(学術部門)第19回選考評, 2007年2月
- 「人における学習と試験」『人事試験研究』No.201, p12. 日本人事試験研究センター, 2006年12月
- 「《現在》を打つ透明な言葉——『新井奥邃著作集』完結」コール ダニエル・黒住真対談, 『週刊読書人』2006年10月
- 「新井奥邃から目覚めさせられるもの」新井奥邃全集・別巻・月報 2006年7月
- 「書評 佐藤康邦『カント『判断力批判』と現代: 目的論の新たな可能性を求めて』岩波書店」和辻哲郎文化賞(学術部門)第18回選考評, 2006年2月
- 「公共民の学問を唱えた儒学者」『人間会議』2004年・夏号(宣伝会議7月号別冊) pp. 58-62, 2004年6月
- 「人称的想像力と公共哲学」『公共的良識人』(京都フォーラム)151号(第6面), 2004年6月
- 「デジタル情報革命の中でのメディアの公共性」『公共的良識人』(京都フォーラム)第145号(第1面), 2003年12月
- 「デジタルの中での人間と社会のゆくえ」『公共的良識人』(京都フォーラム)第144号(第1面), 2003年11月
- 「東アジアにおける「公共知」のために——公共知シンポジウム参加記」『UP』(東京大学出版会)372号, pp. 27-31, 2003年10月
- 「磯前順一・深澤英隆編『近代日本における知識人と宗教——姉崎正治の軌跡』『歴史評論(歴史科学協議会)』642号, pp. 91-97, 2003年10月
- 「「他者」をめぐる問題とその新しい地平」『公共的良識人』(京都フォーラム)第140号(第3面), 2003年7月
- 「近世の諸思想と仏教」末本文美士, 松尾剛次, 大久保良峻, 佐藤弘夫, 林淳[編]『日本仏教34の鍵』春秋社, 2003年5月
- 「山脇直司「経済の倫理学」(現代社会の倫理を考える8) 経済を人間的生と結びつける学を構想する」『教養学部報』第463号
- 「本の棚」欄, 2002年2月
- 「妙貞問答」『日本仏教の文献ガイド』(日本の仏教 第2期第3巻), 法蔵館, 2001年12月
- 「安丸良夫『一揆・監獄・コスモロジー——周縁性の歴史学』『歴史評論』607号, pp. 86-92, 2000年11月

7. 【対談・鼎談・その他】

- 「鼎論 人間における徳: 生む・奪う・働く・考える・希望する・共鳴する」竹内整一・宮本久雄・

- 黒住真, pp. 223–288, 『思想の身体 徳の巻』2007年3月
- 「日本の古典に学ぶ」〔伊藤仁斎・童子問〕, 盛和塾大阪, (1) 4.16, (2) 5.21, (3) 6.18, (4) 7.16, (5) 9.17, (6) 10.22, (7) 11.19., 2004年4月～11月
- 「デジタル情報革命と公共性」早稲田大学早稲田大学専門職大学院公共経営研究科パネルディスカッション「デジタル情報革命と公共性」での発題およびパネル(筑紫哲也・田丸美須々・神保哲生・田勢康弘・金泰昌と) 2003年10月15日 Wed
- 「公共倫理の形成とそのゆくえ」第174回行政研修, 人事院公務員研修所, 2003年9月10日
- 「江戸期の思想の水脈を掘り下げる(1)(2)(3)」『哲学クオニクル』第382–4号 2003年6月9–11日
- 「著者に会いたい」朝日新聞 読書欄 2003年06月08日
- 「幸福を生み出す商人道——日本思想史の観点から: 近世前中期の経済道徳と幸福」フェリシモ神戸本社 2003.4.25 および盛和塾 於 ホテル日航大阪 2003年4月26日
- 「日本人の「正義」を問う」座談会: 広松渉／川本隆史／黒住真 『現代』1993年2月号
- 「自己紹介」 pp. 97–98, 『アントロポス』1, アントロポス編集委員会, イザラ書房, 1981年5月